

真庭市中和地区 真庭トンボの森における体験型環境学習

一般社団法人おかやまエコサポーターズ

活動の目的

環境問題の入口として体験により、森の価値を伝える啓蒙活動。

森と人間の暮らしの関わり、森が果たす環境面の役割と自分の関わりを知り、自分たちの住む地域について考える。

活動の内容及び経過

小串小は、吉井川の河口に位置し、人工林の森のある西栗倉小とは上流・下流の交流をしてきたが、森の役割や暮らしとの関わりでの学習は取り組んでいなかった。林業以外の森の整備と暮らしの繋がりを学ぶことで、他地域と自分達の住む地域の繋がりがや違いを知り、自分達の地域を考えることに繋がる。そのことで、他校との交流で自分達の地域を紹介し、他校に質問ができる力を伸ばす教育に繋がると学校の教育目標と当法人の環境学習の思いが一致し、体験学習が実現。3月、6月と事前打合せを行い、学習計画を作成し、実施。

9月5日 8時にバスにて移動。往路、事前制作したDVD（講師紹介や、森と日本人の暮らしの変化、森の役割についてのスライドショーを児童が読み上げ直前学習を実施）

10:30～13:30（休憩30分）真庭トンボの森（真庭市中和 津黒地区）にて、午前中森に入り、プロの林業家によるヒノキ伐採見学後、竹へらの使い方を教わりヒノキの皮むきを体験、高学年はのこぎりで枝払いも体験。木の香りや皮をむく感覚に児童は感動。校長も体験の価値を実感。

午後は、低、中、高に分かれ3名の講師が指導。低学年は、森と親しむことを中心に活動、森の中でのハンモック体験（森の木と制服の残り布を利用して製作）で森の心地よさを体感すると共に、図工の材料拾いを森で行った。

中学年は、笹刈を中心に活動、笹刈の意義、道具の使い方、作業上の注意点の解説を受けた。笹は森の邪魔者だけではなく、ちまきづくりや笹茶として利用できることを知り、笹茶を飲むと笹を持ち帰った。森の恵みを体験させることができた。

高学年は、近隣の一般社団法人が管理する薪の集積場と宿泊施設を訪問。近隣住民が自分の森からこれまで放置していた樹木を薪として切り出し、それを傍の宿泊施設「津黒高原荘の冷泉」の薪ボイラの燃料として使う「小さな里山資本主義」と「脱石油によるCO₂削減」の仕組みを学ぶ。また、森整備により育ったクロモジの木からアロマオイルが精製される話も聞き、薪割り体験と共に有用樹と経済の関わりを学んだ。

帰路のバスでは、1992年リオサミットで当時小学生のセヴァン・カリス・スズキの伝説のスピーチ「どうやって直



すかわからないものを壊しつづけるのはもうやめてください」のビデオを上映、当法人で作成した解説書で、小学生でも環境問題に取り組むことができることを伝えてもらった。森の解説ビデオは、その後のまとめの授業でも活用された。

同校は当法人が紹介した外部講師による総合学習を中学年で行っており、自分達の「地域のお宝探し」授業を始めている。10月の授業で合同で森と川、海のつながりについて解説を行った。

活動の成果・効果

森が生活に大きく関わっていること、森は整備により気持ちが良い場所になることを伝えられた。また、整備された森と放置されている近隣の森の違いを知らせることもできた。

今後の課題と問題点

- ・今回は、岡山市の最南端の学校のため移動の時間が長く、活動時間が短かった。森にトイレがなく、昼食のための移動で20分ロス。
- ・バスに同乗しての解説を行えばさらに良かった。
- ・バス代が費用の大きな部分なので、今回は1校のみ実施、県北小規模校ならば2校は実施可能。
- ・次年度については今年12月中に候補を検討する必要がある。

●代表者：小桐登 ●所在地：玉野市八浜町大崎
●TEL：0863-51-2786 ●E-MAIL：f_onigiri@mx9.kct.ne.jp
●URL：https://okayama-eco-surppo.amebaownd.com/
●設立年：2016年 ●メンバー数：6名